

創作論「面白さを分ける
鍵」



20240403



エリー



目次

概要	1
具体例	4

概要

プロットを書いた時、キャラクターの感情が「分からない」「好きになれない」場合、作者のわたしがつまらなくて書き進まない。

しかし、感情があればよいというものではない。

テーマを表す「全体に通底する感情」と

エピソードを表す「シーンの感情」が

関連してないと、商業作品を見ていてつまらなく感じる気がする。

たとえば、薬屋のひとりごとのマオマオなら、「毒のためならなんでもするぞ！」が通底する感情。

各シーンは、毒に関するさまざまな気持ちに関連している。

「腕を傷つけちゃうんだ」で始まる。

そして人を助ける薬屋ゆえに「見て見ぬふりはできない正義感」が、基本の先の応用にある。

ちゃんとテーマ、ストーリー、キャラを全部関連させることが、面白さのコツなのかも。

要約したら「扱う範囲をはっきりさせて、深掘り」が大事。

深掘りが苦しいから、別の要素を追加してごまかしてしまうと、作者は楽だけど、読者はしらける。

だから、書き慣れないと要素の羅列になり、設定ばかりの話になる。楽だから。

なれてくるとテーマを絞って、シンプルな話題にできる。
そして関係あることを追求し続ける。

たとえば、キルビル1、2を1行にしたら「殺し屋カップルが、別れ話をこじれさせて、復讐し合う話」だ。

構成と描写で、もりもりにしてるだけ。話自体はシンプル。

そして、関係あることだけの確に選んでいる。

だから分かるので面白い！
分かんないと絶対面白いと思わない！

テーマが小さくても、物語の範囲が分からないとダメ。

失敗と成功を分ける鍵な気がする。

範囲を示して、関連させて、深掘りすれば、必ず面白くなる気がする。

ビジネス書も、小説も、そこは同じ。

なぜなら、人は一度にたくさん覚えられないから。

多くて3つ。
シンプルなほどよい。
可能なら1つに絞れ！

自分が読み書きが得意で、覚えられると、気づかない盲点。

「一般人はすぐ忘れる」

なぜなら、作者はずっと考え続けているが、読者は初めて知るから。

具体例

たとえば、

「友情は大切だよなー」

と言った後、深掘りできないから、話題を変えて、

「お金も大事だよなー」

と言われても、何も分からないよね？

深掘りとは、次のようなケースだ。

わたしにとって友情とは、存在するだけでほっとする感覚だ。

リラックスしているから、どーでもいい話が楽しくできる。

つまり、どーでもいい話を聞いてくれたとしても、どちらかが辛く感じていたなら、友情は成り立たない。

なぜなら、仕事など利害関係があるのが、普通の関係だからだ。

「対立するにも関わらず、公平に接する」という態度を見て、信頼するようになる。

その結果として、人には言えないプライベートな悩みも話すようになる。

そう、親しくなる段階がある。

親しくなってないのに、「彼女いるの？」とプライベートをいじられたら、しんどい。

何て言われるか、分からない相手に、大事なことを話すわけがないからだ。

結果だけ真似ても、心地よい関係にはならない。

運営や自営に関わっている場合、利害が対立する。

だから、人柄をはかれる。

でも共同作業したことがない間柄で、信頼度を図ることは難しい。

たとえば、食事会で、「サラダを取り分けてくれた」程度で、信頼してプライベートを打ち明けるだろうか？

モテるテクニックとしてやってるだけなのかもしれない。

そこが現代的な問題なのだ。

生きることが易くなるほど、他人との信頼関係は築くのが難しくなる。

危機が多いほど、真価が問われて、結び付きは強くなる。

暮らしが便利になった現代では、生死をかけるような出来事はほぼ起こらない。

「一緒にディズニーランドに行って、金でサービスを買って楽しむ」

と

「一緒に狩りをして、食べ物を確保しなければ死ぬ」

という状況では、関係は同じにならない。

やろうと思えばできる軽い用事に応え続けて疲弊する。

それでいて信頼されるわけではない。

利用されてるだけでも多い。

だからわたしは、「衣食住はあるが、好きなことは稼がないとできない」という人工的な貧しさを、子どもたちに用意しなければ、人間不信に陥ると考える。

利害関係がなく、のほほんと暮らせることは、人の理想だ。

だが、大人にはなれない。

人生の最期に、「この人たちと出会えてよかった」と思える人間関係を望むなら、子供時代に村の自治に関わるべきである。

叩かれた鉄が強くなるように、試練を乗り越えた友情は強い。

つまり、「友情」というキーワードで、テーマを「居心地のよさ」に決めて、「初めに利害がある」という切り口でまとめたから、「友情の深掘り」なのだ。

「テーマに絞って書く」が、小論文でも、小説でも、エッセイでもできなくて、めちゃくちゃ苦労した！

でもできなくて普通で、できる人がすごいのだ！

自分をダメなやつと思う必要はなかった。

そして、コツがわかりかけてる。

偉いぞわたし！

投げ出さずに続けてよかった。

(´ー`)

創作論「面白さを分ける鍵」20240403

著 ELYE

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
